

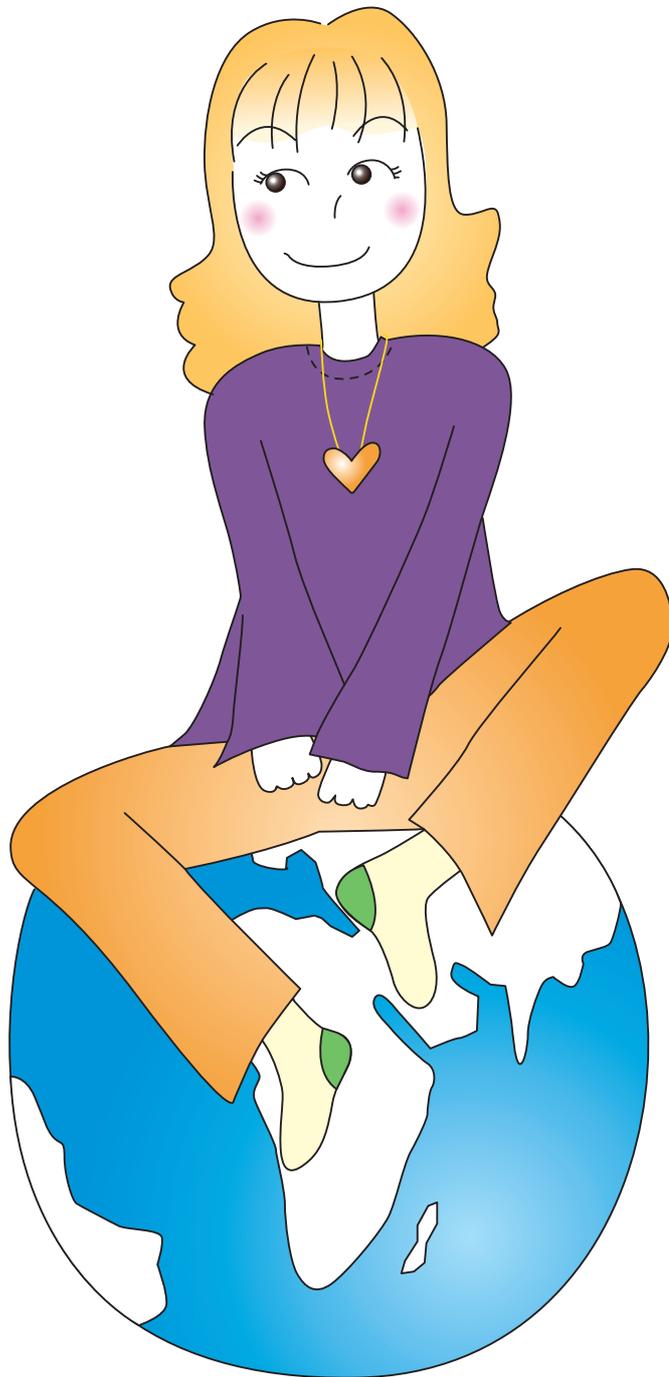
2002.10月 第9号

「f・wave」とは、

**f**は、family - 家族、  
friend - 友、  
freedom - 自由、  
future - 未来、そして  
f - 強く、を意味し、

**wave**は、波を表します。  
f・WAVEは、社会環境の変化の  
波を結面を通して伝え、男女が生き生  
きと暮らせる未来をめざすコミュ  
ニケーション誌です。

# f・wave



特集

アムペイドワークって知っていますか？

## 特集

# アンペイドワークって知っていますか？

## みんなで家事れば

こわくない

皆さんの家で、家事、育児、介護を主にしているのはどなたですか。家庭内でのこうした仕事は「アンペイドワーク（無償労働）」と呼ばれています。誰かがやらなければならない重要な仕事です。そこで、アンペイドワークについて考えてみました。

## 労働とは？

国語辞典で引いてみたら、労働とは「人間の生活に必要なものを作り出すために働くこと」となっていました。この意味から考えると、労働とは本来、生活を豊かにするすべての活動を意味しているのです。

私たちの一日の行動には、有償の仕事以外に睡眠・食事・家事・育児などがあります。

ところが、お金を稼ぐ仕事のみが労働として評価され、自分や家族のための炊事や洗濯などの仕事は労働とは認識されていないのではないのでしょうか。

これは、高度経済成長の中で、賃金を得る仕事のみが評価されてきた結果かもしれません。

## アンペイドワークという言葉が生まれた背景

一日の生活時間を経済的にみた場合、労働として貨幣収入をもたらす仕事と、通常お金は支払われないが、人間が生きていくために不可欠な、生活を豊かにするための仕事があります。

このお金が支払われない仕事を表すものが、アンペイドワークという言葉です。

この言葉が注目されてきたのは、平成7年の第4回世界女性会議（北京会議）からです。この会議から「農業・自営業などにおける無償労働」や「家事・子供の世話・高齢者の介護・ボランティア活動」などがアンペイドワークとして位置づけられたのです。

## アンペイドワーク時間

今の日本でどのくらいの時間がアンペイドワークとして費やされているのでしょうか。旧総務庁が平成8年に活動別、性別の調査を行いました。（表1）

一日あたりのアンペイドワーク時間は、女性の3時間50分に対し、男性は31分と非常に格差が大きくなっています。

では、世界と比べてみてどうでしょうか。（表2）ここでも日本の男女間格差が大きいことがわかります。アンペイドワークに関わる時間も他の国より短くなっていますが、これは、日本の労働時間の長さや個人の意識に関係していると考えられます。

表1 1日あたりのアンペイドワーク時間（活動別・性別×全国平均）

内容	女性	男性
社会的活動	4分	4分
買い物	34分	12分
育児	20分	3分
介護・看護	5分	1分
家事	2時間47分	11分
合計	3時間50分	31分

社会生活基本調査（総務庁 1996（平成8）年）

ある共働き夫婦の場合

妻

夫

AM6時



AM7時



仕事中



PM7時



PM10時



家事は大切な労働です

豊かさや貧しさの基準は、ともするとお金で換算されてしまいがちですが、家事や育児などのアンペイドワークは、私たちの生活を支える大切な労働です。

「家事や育児・介護などは女性が担うもの」と考えてはいないでしょうか。家事労働に関わる時間の格差を見てもそれは明らかです。これは、昔からの性別役割分担によるものかもしれませんが、長時間労働の男性たちの陰で家事や育児等のアンペイドワークを支えてきたのは女性たちだったのです。

ともにバランスよく担う社会へ

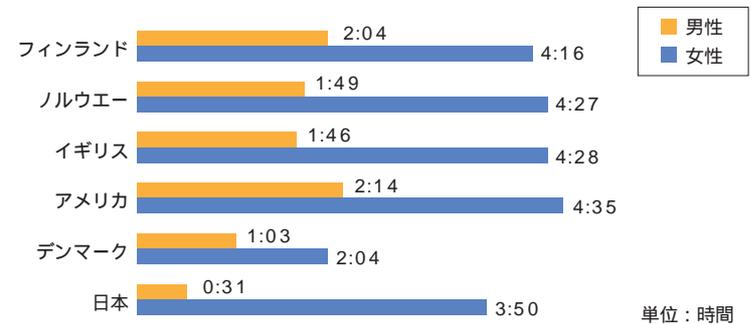
男女雇用機会均等法の改正など、女性の社会進出はますます盛んになっていきます。さらに労働の規制緩和により、いろいろな働き方を選ぶこともできるようになりました。

しかし、家事を女性の仕事として捉えてしまうと、働く女性たちは仕事と家事の二重負担を負うことになってしまいます。男性も女性もいきいきと生活するために、ペイドワーク、アンペイドワークともにバランスよく担う必要があります。ともに関わりあつことで、仕事や家事の大切

さを認め合うことができるのではないのでしょうか。それとともに、アンペイドワーク時間を生活時間の中にくみこんで、労働の場や社会保障制度の上でも評価するシステムを確立していくことが重要です。

アンペイドワークを支えるものは、家族への感謝の気持ちや愛情です。この機会に、我が家のアンペイドワークはどうなっているか考えてみませんか。

表2 1日あたりのアンペイドワーク時間(国際比較)



無償労働の貨幣評価についての報告 (経済企画庁 1997(平成9)年)



# 家事労働って いくらなの??

男女共同参画社会は21世紀の最重要課題と位置づけられています。しかし、現実には女性が家事一切を任せ、男性が働きに出て賃金を稼ぐ。これがまだ日本では当たり前のことではないでしょうか。

「男女共同参画社会は、まず家庭から！」ということで、緊急市民アンケートを実施。家事労働に対するあきる野市民の意識を探ってみました。

市民100人に  
聞きました

女性50人  
男性50人

## アンケート結果から

Q3

家事労働を賃金に  
換算したらいくら？  
(ひと月あたり)

30万円以上	5人
20万円以上	11人
10万円以上	19人
10万円未満	13人
その他	2人

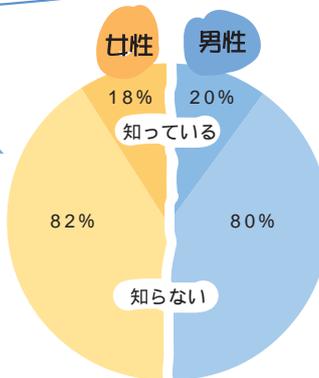
**夫**

30万円以上	5人
20万円以上	16人
10万円以上	20人
10万円未満	8人
その他	1人

**妻**

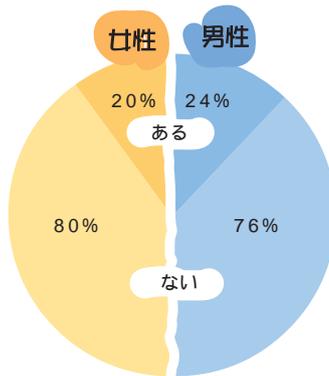
Q1

アンペイドワークって  
知っていますか？



Q2

家事労働を賃金に  
換算したことが  
ありますか？



## 女性の意見

家事労働で賃金を貰いたいとは思わないが、夫には正当に評価して貰いたい。「ありがとう」の声がほしい。  
(30代)

家事分担は必要。そうしないと共働き主婦が報われない。  
(40代)

男性も家事全般一通りできるようになるべき。そうすれば、妻がもし倒れたときに役立ちます。  
(60代)

女性が家事をするのが当たり前という時代に育ったせいか、対価を金額で表すのは難しい。  
(50代)

健康でないと価値がないといわれているようで、病気の時などむなしさを感じる。  
(50代)

それぞれが目的意識をもって計画的に家事をすると、達成感を感じられるのではと思います。  
(50代)

家事労働は家族みんなが心地よく暮らすための大切な仕事だと思っ  
(30代)

主婦にも定休日があつていいと思  
(60代)

専業主婦なので家事は自分の役割としてやっているが、育児については共同作業として、もっと夫の協力が  
(30代)



## 家事労働の評価 = 主婦の値段？

家事労働等無償労働の評価を最初に行った公的な機関は、旧経済企画庁です。

平成8年に行われたこの調査で、家事労働の「貨幣換算」が行われましたが、家事労働を性別年代別の平均賃金で試算した結果、専業主婦の一月あたり評価額は25万3250円との結果が出ています。

家事労働の評価をすることは、主婦の値段を出すことが目的ではありません。社会の中にどのくらいのアンペイドワークがあるかを認識することが大切です。

家事労働を測定・評価し、女性の経済的・社会的貢献を明らかにしていくことは、社会の中にあるアンペイドワーク時間の大きさや社会制度の中でのあり方を考えていく上で、必要不可欠なものです。

性別役割分担から開放され、男性も女性も家庭の中で社会の中で1人1人が関わっていくことが重要です。

## アンペイドワークのひと月あたり評価額

	女性	男性
結婚していて働いている人	166,083円	30,500円
結婚していて働いていない人	253,250円	57,000円
独身の人	63,750円	19,916円

(1996(平成8)年 経済企画庁)

## アンペイドワークをとりまく社会環境の変化

### 少子・高齢化の進展

少子化社会の到来は、労働力の減少をもたらし、女性の労働力を必要としています。

また、高齢社会の到来も介護への労働力を必要としています。

### 労働の規制緩和

女性の深夜業や残業規制が撤廃されるなど、働く環境も変化しています。様々な分野で女性が働くようになりましたが、家事や子育てなどがなくなるわけではありません。アンペイドワークを社会や男女で分かち合うことが必要となってきたのです。

## 男性の意見

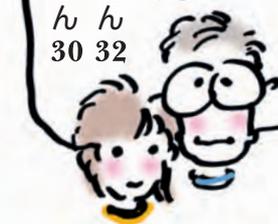
- 最も地味で忍耐の必要な仕事なのに、誉められることが少ないと思う。(30代)
- 重労働だと思う。夫の成功も妻あつてのことだと思う。感謝している。(60代)
- 自分で家事をやらない人をなくすべき。(30代)
- 仕事のほうが楽だ。(30代)
- 自分も家事を分担すべきだと思うが、仕事にかまけて手伝えないのを申し訳なく思う。心の中で感謝している。(40代)
- 感謝すれども、私自身家事をする気はない。その分仕事は精一杯頑張っている。(40代)
- 男性も積極的に家事労働に取り組むべきだと思う。(50代)
- 専業主婦で育児中の場合の評価はかなり高くなるのでは。(40代)
- 家事は労働とは考えていません。(40代)
- 仕事がある日は無理だが、休みの日は手伝つようにしている。(20代)

あきる野発・ひと

夫婦で

ライブル

木工作家 藤本充郎さん 32  
寿枝さん 30



作品づくりに集中する藤本夫妻

シンプルで木の質感を活かしたデザインのイスやテーブルなどを製作する、あきる野市平沢の藤本充郎、寿枝さん。夫婦が共に木工

家具職人で工房を開いているということでお話を伺いました。

### 職人の道へ

充郎さんは、あきる野で生まれ育ち、サラリーマンをしていたが、好きな木工の道へと心機一転、北海道帯広高等技術専門学院の木工科に入学。卒業後は友人と北海道で工房を開き、家具作りに専念していました。

寿枝さんは北海道生まれ。会社勤めをしていたが、「何か形に残る仕事したい」と充郎さんと同じ専門学院に入学。二人の出逢いは、その時ともに学んだのがきっかけでした。卒業後、寿枝さんは地元の建具屋に就職し、男性に混じり経験を積んでいきました。

二人は三年前に結婚、同時に充郎さんの実家であるあきる野で生活するようになり、家具工房を開いたのです。

### それぞれ独立

充郎さんの自身作『お父さんのイス』は、座り心地はもちろんのこと、雑誌やグラスを置くところ



ぬくもりのある夫妻の小作品

などアイデアいっぱいです。寿枝さんの代表作は、キッチンのお器棚で、細かい部分まで気を遣い、主婦ならではの使い勝手を追求しています。作品作りは、それぞれが独立し、技術の上では『夫婦でライブル』と言つ。寿枝さんは「時にはけんかにもなります。変に私が口を出してしまいますね。(笑)力はある方だと思えますが、一人でできない大型のものは手伝ってもらいます」と話す。充郎さんは「彼女は、建具屋さんの経験があるし、少しやり方が違うとい

うことはありますね。基本的には、自分で描いた図面は自分で作り上げるので、あまり干渉はしていません。細かい寸法、使い勝手のよさ、女性ならではのデザインを見ると、家具製作は女性の感覚の方が向いている部分もあると感じます」と話していました。

### 家庭内では

昨年、長男匠巳君が誕生し、夫妻はただ今子育て奮闘中ですが、子どもの成長を楽しみながら、作品に取り組んでいます。そんな二人に家事の分担を伺つと、「私は、子どもをお風呂に入れるくらい」と充郎さんは苦笑し、寿枝さんは「今は育児に専念しているので、ほとんどの家事は私がしますが、もう少ししたら保育園に預けて、仕事に復帰したい」と話していました。

### 取材を終えて:

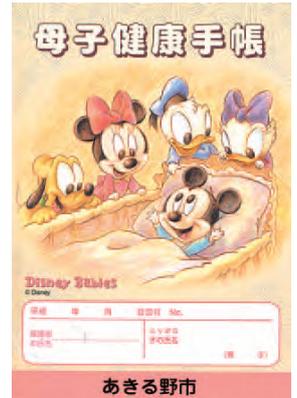
仕事の上ではライブルの二人だが、お互いに認め合い、好きな道に情熱を燃やす夫妻に、理想的な夫婦の生き方を見ました。

ジェンダー・フリー News

父親の育児参加を促進するため、父親母親両方の育児休業の取得を記録する欄を設け、表紙も保護者の名前を併記できるようにする。

乳児を強く揺さぶることで脳出血、脳障害にもつながる「揺さぶられっ子症候群」の予防に関する記載とチャイルドシートの使用に関する記載を追加することになっています。

母子健康手帳が  
変わりました



母子健康手帳が10年ぶりに全国で改正され、あきる野市でも7月1日より切り替わりました。主な改正例をあげてみました。

乳幼児の発育など保護者に必要以上の不安を与えないよう、身長や体重を記入するグラフを簡素化する。

健診記録欄には、母乳をやめる「断乳」という表現を改め、母乳を飲んでいのかを確認するだけにする。

街角スポット 9

心和ます並木道

旧秋川高校のメタセコイア

市役所の屋上にとると、西側のビルの間から三角形の連なりが見えます。これは、旧秋川高校のメタセコイア並木です。秋から冬にかけて黄色から赤に変化し、美しい姿を見せてくれます。

メタセコイアは、生ける化石として有名になった落葉針葉高木です。1941年、日本で約二千万年前の地層から化石で見つかり、市内引田の三ノ谷付近でも発見されています。また、中国四川省の奥地で生き延びているのも発見されています。

旧秋川高校（1965〜2001）の正門からまっすぐ北に続いているメタセコイア並木は約80本、高さは30m近くあります。昭和42年11月に卒業を控えた第1期生と教職員

が、ここに定植したものです。秋川高校の象徴として校樹となり、その葉は校章にも取り入れられました。並木道の傍らにある碑には『互いに枝を交えつつ、整然と立ち並び、春に秋に見せる高雅な光彩』と記されています。

現在、旧秋川高校は三宅島の子どもたち（避難当初359名、現在80名）の勉強の場となっています。

秋川高校はなくなりましたが、並木は残してほしい。」という卒業生からの声が寄せられているということです。

並木道はそこを訪れる人々の心を和ませる場所となっています。



散歩道として人気のメタセコイア並木



本



『夫婦という幸福  
夫婦という不幸』

沖藤典子 著  
出版 集英社

50歳を過ぎた中年期の夫婦がこれから直面する様々な問題を通して、人生の後半を生きる夫婦はどう変わっていくべきかを、著者の体験を交えて綴る。



『海原純子の「心」がおち  
こんだとき読むクスリ』

海原純子 著  
出版 講談社

「他人が羨ましい」悩み、「生き方」の悩み、「親子関係」「夫婦関係」…。私たち女性が、前向きにいきいきと輝くための魔法のエッセンスがぎゅっと詰まっっていて、おちこんだ「心」や疲れた「心」に効きます！

この本は、市内図書館で借りられます。

ライフステージセミナー  
開かれる

「どうなる?女性の年金」

7月13日(土)、教育委員会主催のライフステージセミナー「どうなる?女性の年金」が、あきる野ルピアで開かれました。

講師は、税理士で「女と男が平等に働くための制度改革を進める会」の山崎久民さん。

山崎さんは、年金制度の基本的な用語の説明や、今の制度の問題点を指摘しました。

「職業によって加入年金が異なるのではなく、統一の制度とし、20歳時に手続きなしの自動加入とする。」年金制度のモデルには、サラリーマンの夫と専業主婦のカップルという性別役割分担の意識がある。そのため、共働きやシングルマザーなどの多様な働き方、生き方に対応できていない。世帯単位から個人単位の給付にする。」

「福祉や暮らしのサービスなどの財政支出を享受している私たちは、誰がどのように税金を負担すると公平になるのかを考え、目的を定めて、あるべき年金を議論し変えていこう。」と述べました。

参加者からは、質問や意見が活発に出て、年金制度への関心の高さがうかがわれました。



講師の山崎さん

Information

インフォメーション

ワーキングセミナー

「働く女性のための自己表現講座」

日時 平成14年10月12日(土)・19日・26日(土)

11月2日(土)・16日・23日(土)

午後2時~4時

講師 池木由美子さん(フェミニストセラピー“なかま”)

大谷 香さん(カラーカウンセラー)

場所 あきる野ルピア(3F 産業情報研究室)

第7回女と男のライフフォーラムinあきる野

「変わりゆく家族のかたち」(仮)

日時 平成14年11月30日(土)

午後1時30分~4時30分

講師 沖藤典子さん(ノンフィクション作家)

斎藤次郎さん(教育評論家)

石丸偉丈さん(カウンセラー・主夫)

場所 あきる野ルピアホール(3F)

セミナー、フォーラムとも保育付(要予約)

申込み・問合せ 社会教育課女性係 558-1111 内線3016へ

編集後記

初の取材で緊張。互いの存在を認め合い、ともに成長って素敵だな。さて、ウチは...

石山亜由美

初めての誌面づくりは、新しい発見がいっぱいでした。これからが楽しみです。

大本浩子

人との出逢い、取材、編集。今までにない刺激に悪戦苦闘。これからも勉強!

大串 睦

昨今の“家事労働は男女で”に、あの「男子厨房に入らず」はどこにいったのか?ふと思う。

大森 忠

興味から飛び込んだ編集。思ったより奥が深かった...。仲間みなさん、これからもよろしく!

葛西静子

当たり前?なぜ?そんな事を考えるといつもと違う景色が見えてきた。

中山佳代子

36の酷暑日でも、そこだけが涼やかな風が吹いていたメタセコイアの並木道でした。

藤村美映

編集にたずさわって日常性から目覚め、目の前がパッと開けたように自分の世界が広がりました。

松田さなえ

「人」が「動く」と書いて「働く」。だから「遊び」も「働く」かな。

三重野由美子

表紙 / 市川美加

この情報誌に関するご意見・ご感想、また、誌面で取り上げてほしいテーマなどを下記までお寄せ下さい。

「エフ・ウェイブ」は公募の市民編集委員により編集しています。エフ・ウェイブは、市役所・公民館・図書館・生涯学習センター・ファインプラザなど、公共施設等に置いてあります。



エフ・ウェイブ

第9号 2002年10月発行

発行 / あきる野市教育委員会社会教育部社会教育課

〒197-0814 あきる野市二宮350

Tel 042-558-1111 (内線3016) Fax 042-558-1560

E-mail : josei@city.akiruno.tokyo.jp

企画・編集 / あきる野市男女共同参画情報誌編集委員会



古紙配合率100%再生紙を使用しています